

## 倭の五王

中国・高句麗の記録

年代

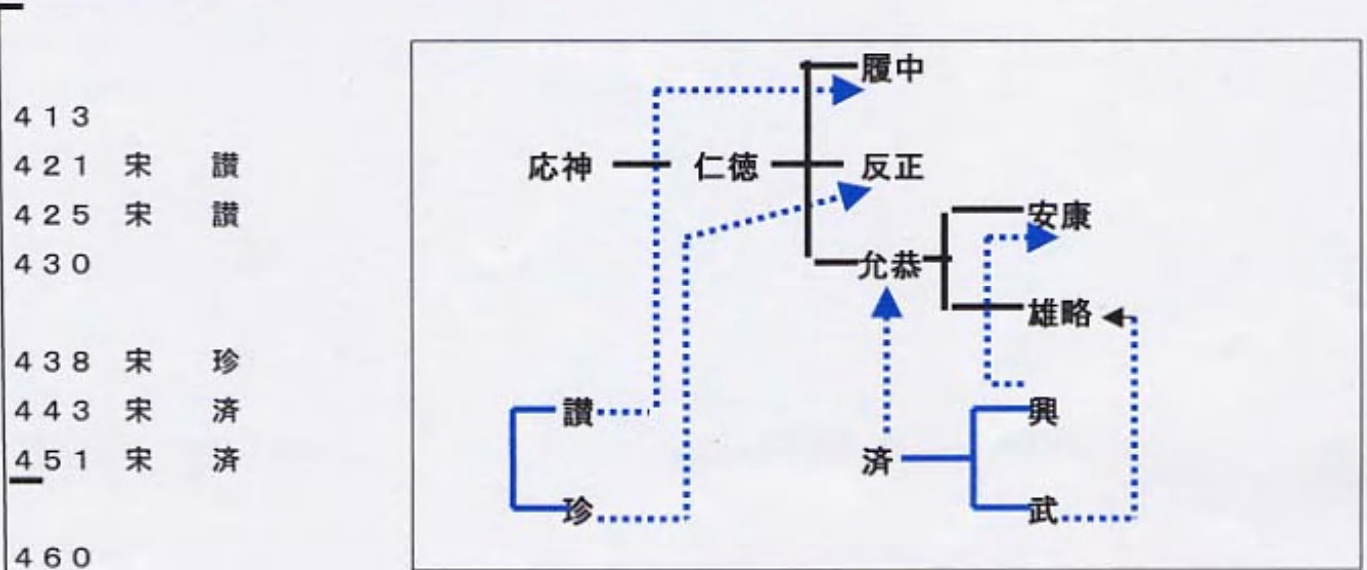
記事

239 魏 卑弥呼が使節を帯方郡に派遣

266 晋 耆与が使節派遣



391 高句麗 広開土王碑 倭が海をわたり・・・・



「宋書」には倭の讚、珍、濟、興、武と云う五王が宋に使者を送ったと記されている。

讚 425年に宋に入貢した。

17代履中天皇のほかに、応神天皇、仁徳天皇の説がある。珍入貢とともに宋の文帝に倭国、百濟、新羅、任那など五国の軍事統監への任官を求めた。18代反正天皇とされる。

濟 443年に安東將軍・倭国王の称号を受けた。

19代允恭天皇とされる。

興 462年濟と同じ称号を受けた。

20代安楽天皇とされる。

武 478年宋に上表文を送り、倭国での地位を説明し、地位を得ようとした。その結果「使持節都督、倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事、安東將軍・倭国王」に叙された。

雄略天皇とされる。

5人の倭王は中国皇帝に朝貢し、官爵を求めている。中国皇帝は朝貢してきた周辺の有力者に官爵や称号を与えていた。冊封（さくほう）と云う。倭国は伽耶まで領土をひろげ、百濟と連携し高句麗に対抗していた。百濟、高句麗、倭国は中国の後ろ盾と国際上の地位を得ることを中国に求め、倭国は478年までこの外交を続けた。また中国に倭王として認められることは国内豪族たちの支配に有用であった。